

通訳ガイド団体 認定制度創設へ

東京五輪向け県

県は23日、2019年ラグビーワールドカップ（W杯）と20年東京五輪・パラリンピックで訪日する外国人観光客に向けた通訳ガイドについて、県内の優良ガイド団体を認定する制度を創設する考えを示した。同日の県議会第3回定例会本会議で、黒岩祐治知事が明らかにした。

外国人観光客の増加による通訳ガイドの需要の高ま

りに、黒岩知事は「人材の育成や確保を図っていく必要がある」と答弁。ガイド団体と連携して県民向けに通訳ガイドに関する説明会を開催した上で、ガイドの質の確保へ「十分な活動実績があり、研修内容も充実している団体を県が認定して、PRする制度創設を検討する」と述べた。

また、ラグビーファンの多い英国やフランスなどの旅行会社に、県が企画・商品化を進めているツアーを観戦チケットとセットで販売するよう働き掛ける考えも示した。こうした国で人気のラグビー雑誌を通じて神奈川を紹介してもらったため、雑誌記者を招き、県内観光地を紹介することも検討する。

自民党の山本哲氏（寒川町）、かながわ民進党の松崎淳氏（横浜市金沢区）の一般質問への答弁。

（鈴木 昌紹）